

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 2 日現在

機関番号：14501
 研究種目：基盤研究(B) (一般)
 研究期間：2012～2016
 課題番号：24330171
 研究課題名(和文) 社会関係資本とキーコンピテンシーによる困難事例自己解決コミュニティ開発の方法

 研究課題名(英文) The methodology of community development to empower communities to solve 'difficult cases' with tools of social capital and key competency

 研究代表者
 津田 英二 (Tsuda, Eiji)

 神戸大学・人間発達環境学研究科・教授

 研究者番号：30314454
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,600,000円

研究成果の概要(和文)：社会的な課題が個人的な問題として集約的に表れている問題の中で、制度的な枠組みによっては解決が困難なケースを「困難事例」と理解し、「困難事例」に向き合うためには、個人のエンパワメントにとどまらず、コミュニティエンパワメントが不可欠である点について理解を深めた。その上で、さまざまなコミュニティにおけるそれぞれの困難な状況と、それをコミュニティエンパワメントを通して軽減していく方法について検討した。さらに、社会関係資本とキーコンピテンシーを原理としたコミュニティエンパワメント、困難事例が蓄積している多様なコミュニティの状況分析を2本柱として、総合的な考察を行った。

研究成果の概要(英文)：1.The relations among the concepts of 'difficult cases', 'social capital' and 'key competency' were discussed and clarified. 2.With understing that community empowerment as well as individual empowerment is essential to the 'difficult cases' which are not solved by institutional support, the conditions of community empowerment were clarified in relation with social capital. 3.Community empowerment of specific 'difficult cases' was discussed. Specific cases were found in the field of dizaster stricken areaaa, disability communities, communities in poverty in developing countries, learning communities in schools, distinguishing rural communities, child care communities and so on. 4. the methodology of community empowerment which makes the community produce social capital and key competency was discussed and the effect of community empowerment was verified.

研究分野：インクルーシヴ社会支援論

キーワード：インフォーマルな相互支援 コミュニティエンパワメント 社会関係 能力 貧困 ボランティア 障害 社会教育

1. 研究開始当初の背景

社会福祉をはじめ政治、経済、教育など、さまざまな分野で社会的排除が大きな問題となっている。社会的排除とは、複合的な要因によって政治的・経済的・文化的・社会関係的貧困に陥り、さらに必要な支援も欠如することで社会への参加が制約された状態のことをいう。これを克服するために、インクルージョンが社会政策上の国際的キーワードとなってきている。

私たちはこれまで、インクルーシブな社会を実現するための方策について実践的に研究を重ねてきた。その過程で、社会的排除の典型である「困難事例」に遭遇し、その対応に苦慮してきた。現象する問題の複雑性や問題の原因の複雑性、制度の枠組みでは十分な対応ができない性質、社会関係の希薄さといった「困難事例」の特徴から、「困難事例」こそが社会的排除の典型と考え、社会がいかに「困難事例」に向き合うかということが、インクルーシブな社会の実現にとって重要な位置づけをもっていると考えに至った。

「困難事例」は社会福祉の領域で問題とされ、さかんに政策課題としても取り上げられるようになってきている。「困難事例」とは、問題を抱えながら社会生活を営んでいた個人が、社会にある通常の相互作用から排除され、それと同時に専門分化したサービスの対象とされたが、そうしたサービスによってうまく救済されない事例であると捉える。

「困難事例」に関して既に、主にケアマネージメントを対象とした実態調査が行われており、またケアマネージャーの実践に役立つ形でのマニュアルの作成などもなされている。自立支援協議会や地域包括支援センターも、「困難事例」をターゲットの一つとして想定しているため、今後も事例検討がなされていくことが予測される。

本研究は、「困難事例」に向き合う実践方法の開発にあたり、「社会関係資本」および「キーコンピテンシー」をキーワードとする。「社会関係資本」は、信頼関係や協力的な態度、相互作用、公共的な意味空間へと人々を動員する規範を伴う社会的ネットワークのことをいう。社会的排除の問題と社会関係資本との間にある相関関係は、近年強く認識されるようになってきている。また、「キーコンピテンシー」は、OECDによって提起された概念であるが、単なる知識、技能だけでなく、態度を含むさまざまなリソースを活用して、現実の中で直面する複雑な課題に対応することができる力とされる。

「社会関係資本」「キーコンピテンシー」が、ともに「困難事例」の当事者のみに求められる能力に還元されるのであれば、新たな社会的排除を生み出すだけに終わりかねない。能力の有無が「困難事例」からの脱出の可否を決定する要因とされてしまうからである。「社会関係資本」は、人々の関係性を問題にするので、その関係性を成り立たせて

いる社会環境や場の構造に着目しなければならない。「キーコンピテンシー」はより個人の能力に着目した概念であるが、複雑な課題に対応する際の他者との協力は排除されない。つまり、他者との競争を生み出す個人の能力が問題にされているのではなく、集団の能力の総和と個人の能力が十分に発揮することのできる関係性や環境が問題にされていると考えることができる。

したがって、「社会関係資本」「キーコンピテンシー」を媒介にして「困難事例」に介入するというのは、「困難事例」の当事者だけへの介入を意味するのではなく、「困難事例」を成り立たせ、あるいは放置している社会関係や社会環境への介入を意味するのである。本来であれば人間の集まりに自然に生起するはずの課題解決能力を回復するための介入といってもよい。

コミュニティ内で「社会関係資本」と「キーコンピテンシー」が自己生成できる状態が生まれれば、二つの機能が協働して「困難事例」を自己解決できるコミュニティが形成されるのではないかと、という仮説がある。したがって本研究の主要な問いは、「困難事例」を自己解決できるコミュニティ形成に、「社会関係資本」「キーコンピテンシー」はどれほど有用か、コミュニティは「社会関係資本」「キーコンピテンシー」をどのように自己生成できるか、という2点に整理できる。

2. 研究の目的

本研究では、研究期間内に次の成果を挙げることがめざす。「困難事例」の本質の究明。コミュニティが「社会関係資本」「キーコンピテンシー」を自己生成する方法の開発。「社会関係資本」「キーコンピテンシー」の増大と「困難事例」の減少との相関の検証。

3. 研究の方法

第一に、「困難事例」の本質を解明するためのエピソード分析、参与観察、質問紙およびインタビューによる調査を実施する。エピソード分析は、これまで私たちが蓄積してきたデータの分析を中心に行い、また質問紙およびインタビュー調査としては主に神戸市内の障害者地域生活支援センターおよび地域包括支援センター職員を対象に行う。

第二に、コミュニティが「社会関係資本」「キーコンピテンシー」を自己生成するための方法の開発を行う。この開発にあたっては、すでに私たちが行ってきた「都市型中間施設」の実践的研究の成果を引き継ぐことができる。その足場のひとつに、私たちが企画・運営している「のびやかスペースあーち」がある。この施設の概要は次頁の通りである。なお「都市型中間施設」とは、過度に機能分化し硬直化した制度やシステムの変革を課題とし、また制度、システムによって操作、

支配され、孤立化される人間の解放を課題とする場であり、そのために、分化した機能を乗り越えた実践をつくりだすとともに、当事者性の異なる人たちの間でのコミュニケーションを活性化し、さまざまな問題を日常の文脈に留め置くことができるための配慮がなされた場をいう。

第三に、「困難事例」「社会関係資本」「キーコンピテンシー」等の概念や実態についての定例研究会における集中的な議論や文献研究、本研究の効果検証の方法の検討および決定を行う。また、国際比較研究実施の足場を固めるため海外の研究機関、研究者との交流機会をもち、研究目的等の相互理解を深める。

4. 研究成果

まず、困難事例、社会関係資本、キーコンピテンシーといった主要概念の整理を行い、総合的な観点から課題状況を把握した。

社会的な課題が個人的な問題として集約的に表れている問題（特に社会的排除の問題）の中で、制度的な枠組みによっては解決が困難なケースを「困難事例」と理解し、「困難事例」に向き合うためには、個人のエンパワメントにとどまらず、コミュニティエンパワメントが不可欠である点について理解を深めた。また、そのコミュニティエンパワメントがどのような形で、どのような過程の中で可能になるのかというテーマの重要性を指摘し、社会関係資本とコミュニティエンパワメントとの関係を追究した。

また、研究代表者、研究分担者個々人が責任をもってかかわっているそれぞれのコミュニティ（震災被災地、障害者コミュニティ、地域コミュニティ、発展途上国の貧困コミュニティ、学校の学習コミュニティ、過疎地の農村コミュニティ、子育てコミュニティ）におけるそれぞれの困難な状況と、それをコミュニティエンパワメントを通して軽減していく方法について検討し、各論を構成した。

さらに、社会関係資本とキーコンピテンシーを原理としたコミュニティエンパワメント、困難事例が蓄積している多様なコミュニティの状況分析を2本柱として、総合的な考察を行った。社会関係資本とキーコンピテンシーが自己生成されるコミュニティエンパワメントの方法についての総合的な検討であるとともに、「社会関係資本」「キーコンピテンシー」の増大と「困難事例」の減少との相関の検討したものである。

こうした意図して出された研究成果の他に、共同研究が生起する関係、継続的な研究を通して今後にもつながらる関係の発展を結果した海外の研究機関がある。中でも特に韓国ナザレ大学（韓国）、サンベータ大学（フィリピン）、シラキウス大学（米国）との関係の発展は特筆しておきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計38件)

津田英二「「場の力」を明らかにする」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』19、2012、pp.34-43

津田英二「自分らしく生きることと労働」『日本社会教育学会紀要』48、2012、pp.43-45

赤木和重「自閉症児の社会性を育てる」『子どもの発育発達』10、2013、pp.235-239

寺村ゆかの、伊藤篤「子育て支援「つどいのひろば」における相談のあり方に関する一考察（ ）」『心の危機と臨床の知』14、2013、pp.45-57

近藤龍彰、赤木和重、津田英二他「知的障害のある青年が大学生になることに関する一考察」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科』7(1)、2013、pp.135-152

津田英二「障害差雇用の展開と雇用以前の問題」『日本の社会教育』57、2013、pp.44-55

上野谷加代子、室田信一、津田英二、野尻紀恵「社会的包摂と社会教育・ボランティア学習」『ふくしと教育』16、2014、pp.4-9

津田英二、田中耕一郎他「個人的な経験と障害の社会モデル」『障害学研究』9、2013、pp.8-64

伊藤篤、川谷和子「地域子育て支援拠点・ひろば型における早期ペアレンティング講座の意義」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科』7(2)、2013、pp.125-131

津田英二「語りが意味をもつ場の創出へ」『年報・教育の境界』11、2014、pp.61-75

津田英二「民間学童保育所における子どもとおとなの学び」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科』7(2)、2013、pp.113-124

盛敏、津田英二「ボランティア学習において当事者の状況を共有することの意味」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』23、2014、pp.5-15

津田英二「福祉教育・ボランティア学習におけるインクルージョン理念の含意」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』23、2014、pp.27-35

津田英二「協働的な自律支援のコミュニティ形成に向けて」『生涯学習/社会教育研究ジャーナル』7、2014、pp.81-97

清水伸子、高橋眞琴、津田英二「インクルーシブな社会をめざす実践におけるインフォーマルラーニングの重層性」『神戸大学大学院人間発達環境学研究所』8(1)、2014、pp.165-179

津田英二「地域の中で共に育つ・育てる環境をつくる」『ふくしと教育』17、2014、pp.16-19

津田英二「「障害者の社会教育」再考」『月間社会教育』706、2014、pp.50-56

松岡広路「いのちの持続性と福祉教育・ボランティア学習」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』24、2014、pp.6-16

寺見陽子、寺村ゆかの、伊藤篤他「養育性の育児支援のあり方に関する考察」『神戸大学大学院人間発達環境学研究所』8(2)、2015、pp.137-149

田中真理「「障害」をめぐる支援と防災教育」『教育と医学』729、2014、pp.71-81

松崎泰、田中真理「ある青年期自閉症スペクトラム障害者の共感性」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』63(2)、2014、pp.257-268

赤木和重「子どもの内面とどう向き合うか」『北海道の寄宿舎教育研究』28、2014、pp.29-42

村田観弥、赤木和重、津田英二他「学生間の相互性に着目したインクルーシブ教育のケーススタディ」『神戸大学大学院人間発達環境学研究所』9(1)、2015、pp.29-43

赤木和重「ヴィゴツキー障害学からみえた知的障害児の発達と教育」『発達・療育研究』31、2015、pp.3-14

横須賀俊司「アテンダントサービス導入プロセスにみるアメリカ自立生活運動の受容に関する一考察」『人間と科学』16(1)、2016、pp.19-31

伊藤篤、塚本美由紀「子育てひろばにおける青少年の養育性育成を目指した体験学習の意義」『神戸大学大学院人間発達環境学研究所』9(1)、2015、pp.57-71

寺見陽子、南憲治、寺村ゆかの、伊藤篤他「父親の養育」『神戸大学大学院人間発達環境学研究所』9(2)、2016、pp.1-22

田中真理「発達障害者の青年期をめぐる移行期支援」『教育と医学』749、2015、pp.924-932

田中真理「思春期における「発達障がい」との出会いと孤立」『教育と医学』739、2015、pp.4-12

太田和宏、木嶋恭子、増田潤他「「貧困家庭向け条件付き現金給付プログラム」のインパクトと課題」『神戸大学大学院人間発達環境学研究所』9(2)、2016、pp.51-62

伊藤篤、津田英二他「「子育て支援を契機とした共生のまちづくり」実践の意義と課題」『神戸大学大学院人間発達環境学研究所』10(1)、2016、pp.93-108

松崎泰・滝吉美知香・高田弘子・田中真理「心理劇を通してみられたある青年期高機能自閉スペクトラム症者の共感と自己理解の変容過程」『心理劇』21(1)、2016、pp.35-46.

Tanaka M., Crisis Management and Disaster Prevention System at Special Needs Schools during Great East Japan Earthquake, Journal of Special Education Research (採択)

田中真理「震災に遭った子どもに起きること」『教育と医学』762、2016、pp.52-59

村上旬平、稲原美苗他「障害者歯科医療における障害のある子どもをもつ親への支援」『障害者歯科』38(1)、2017、pp.16-23.

今井昭仁・伊藤篤「利用状況から見る神戸市内大学運営型地域子育て支援拠点事業」『神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要』10(2)、2017（ページ未確定）

赤木和重「ユニバーサルデザインに基づく授業づくり再考」『教育』853、2017、pp.73-80

赤木和重「気になる子の理解と保育：創造の保育に向けて」『発達』149、2017、pp.18-23

〔学会発表〕(計20件)

滝吉美知香、佐藤健太郎、田中真理「中学校自閉症・情緒障害特別支援学級と校外の機関との連携に関する研究」日本LD学会第21回大会、2012.10.6、仙台国際センター

Kazuhiro Ota, Industrial Relations and the Philippine State, International Conference of Philippine Political Science Association, 2012.4.12-14, Xavier University, Philippines

津田英二「社会的包摂と福祉教育・ボランティア学習」日本福祉教育・ボランティア学習学会、2013.11.17、金城大学(石川)

伊藤篤「子育て支援拠点の利用と親ストレス亢進の抑止に関する研究」日本子育て学会、2013.8.28-29、所沢市民文化センター(埼玉)

寺村ゆかの、瀬々倉玉奈、伊藤篤「出産後早期からの親子支援としての家庭訪問に関する研究」日本子育て学会、2013.8.28-29、所沢市民文化センター(埼玉)

Eiji Tsuda, Inclusion through Reasonable Accommodation, Interanational Rehabilitation Conference, 2014.10.29, Nazarene University, Korea

津田英二「知的障害者のライフストーリー」の実践と研究」2014 韓・日国際学術交流シンポジウム、2015.2.4、韓国ナザレ大学

松岡広路「福祉教育・ボランティア学習の新機軸」日本福祉教育・ボランティア学習学会、社会事業大学(東京)

田中真理、佐藤静「高等教育機関における発達障害学生支援グループワーク」日本心理臨床学会、2014.8.25、パシフィコ横浜

津田英二「日本における発達障害者人材育成」発達障害人材開発センター開所及び国際セミナー、2015.11.24、ソウル(韓国)

津田英二「発達障害者が大学で学ぶこと」学術ウィークス・日韓交流セミナー、2015.12.23、神戸大学

倉石哲也、寺村ゆかの、伊藤篤他「子どもの貧困対策を考える」日本子育て学会第7回大会、2015.11.29、甲南大学

田中真理、滝古美知香「PTSDの自閉スペクトラム症者における自己理解をめぐる心理臨床支援」日本心理臨床学会、2015.9.19、神戸国際会議場

Kazuhiro Ota, Politics of Poverty, Annual Conference of Asian Political Science and International Studies Association, 2015.9.11, Phnom Penh

津田英二、稲本恵子「都市型中間施設の効果と課題」日本社会教育学会第63回研究大会、2016.9.17、弘前大学(青森)

津田英二「青年期発達障害者の文化活動」2016 韓・日国際学術交流シンポジウム、2016.12.10、韓国ナザレ大学

面高有作・甲斐更紗・田中真理「「連携」からみた大学における障害者支援」第65回九州地区大学教育研究協議会、九州地区大学教育研究会、2016.9.3、鹿児島

面高有作・甲斐更紗・田中真理「障害学生支援を担うピア・サポーター学生の「障害」意識変容-知識理解の観点から-」日本特殊教育学会第54回大会、2016.9.17、新潟

稲原美苗「障害とスティグマ 嫌悪感から人間愛へ」第32回京都賞記念ワークショップ:思想・芸術部門(マーサ・クレイバン・ヌスバウム)、2016.11.12、国立京都国際会館

Minae Inahara, A Feminist Phenomenological Investigation of the Lived World of Mothers Who Have Raised Children with Disabilities, 7th PEACE (Phenomenology for East Asian Circle) Conference, Phenomenology of Dis/Ability, 2016.12.17, University of Tokyo

〔図書〕(計10件)

津田英二『物語としての発達/文化を介した教育』生活書院、2012

日本社会教育学会60周年記念出版部会編『希望への社会教育』東洋館出版社、2013(津田英二「排除されるいのち、共感するいのち」pp.48-64)

Rohhss Chapman et.al ed., Eiji Tsuda et.al, Sexuality and Relationships in the Lives of People with Intellectual Disabilities, Jessica Kingsley Pub., 2014

津田英二『人と情報のプラットフォーム』神戸大学大学院人間発達環境学研究所ヒューマン・コミュニティ創成研究センター、2015

K.Okano Ed., Eiji Tsuda et.al., Nonformal Education and Civil Society in Japan, Routledge, 2016

松岡廣路、松橋義樹、鈴木真理編著『社会教育の基礎』学文社、2015

津田英二編『発達障害者が大学で学ぶということ』神戸大学大学院人間発達環境学研究所ヒューマン・コミュニティ創成研究センター、2015

松岡広路監修『神戸大学大船渡支援プロジェクト活動報告書』神戸大学大学院人間発達環境学研究所ヒューマン・コミュニティ創成研究センター、2016

田中真理、川住隆一、菅井裕行『東日本大震災と特別支援教育』慶應義塾大学出版会、2016

赤木和重『アメリカの教室に入ってみた：貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで』ひとなる書房、2017

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

津田英二 (TSUDA EIJI)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：30314454

(2)研究分担者

太田和宏 (OTA KAZUHIRO)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：00273748

松岡広路 (MATSUOKA KOJI)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：10283847

伊藤篤 (ITO ATSUSHI)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：20223133

赤木和重 (AKAGI KAZUSHIGE)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：70402675

稲原美苗 (INAHARA MINAE)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：00645997

清野未恵子 (KIYONO MIEKO)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・助教

研究者番号：40570966

横須賀俊司 (YOKOSUKA SHUNJI)

県立広島大学・保健福祉学部・准教授

研究者番号：60304193

田中真理 (TANAKA MARI)

九州大学・学内共同利用施設等・教授

研究者番号：70274412

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()